

モンゴル国でわずか15年の間に性産業が生まれた背景

いまおか りょうこ
今岡 良子

モンゴルのエンフバヤル（モンゴル人民革命党）政権は、日本に次いで早々にブッシュ政権の反テロ戦争を支持したアメリカ追従政府である。この国際学会の直前、2005年6月5日の「アルディン・エルフ」紙によると、ウランバートルの在モンゴルアメリカ大使館が「モンゴルにおける人身売買問題の現状」と「人身売買問題との闘いに米政府が示す支援」という2つのテーマをもつ研究会を開いた。その記事には、モンゴルでは人身売買を解決する本格的な対策がとられていないので、新法の制定、国のプロパガンダ、専門家の養成が必要であると指摘された、とある。そして、最後に、米政府は人身売買問題に最も熱心に取り組んでいるオーストラリアに対して、2000万ドルを与えた、と締めくくっている。

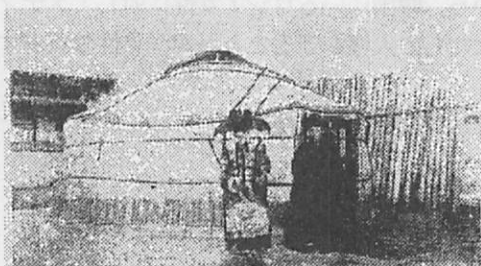
1990年のモンゴルの民主化と市場経済への移行を見つめてきた私にとって、この新聞記事は奇異に思われた。第1に、モンゴルで人身売買が生まれたのは、市場経済移行後である。モンゴルを市場経済に招き入れるのに重要な役割を果たしたのはアメリカである。そのアメリカに人身売買に対する取り組みが不十分だという指摘を受け、そのまま報道していることに疑問を感じた。第2に、モンゴルの新聞は、この研究会の前後、人身売買の事件を一斉に報道するようになった。どの記事も、特殊な犯人と特殊な被害者の間におこる刑事事件として扱っているが、人身売買を生み出した経緯と構造に対して批判の目を向けていないのである。

この報告では、モンゴルで性産業が生まれた背景について述べていきたいと思う。

1921年以前の売買春について

社会主義以前、封建制度の中の女性の地位は売買される家畜同様であった。「月に一度はヤギと女房をなぐった方がいい。」という言い習わしがあり、女性の地位は低かった。売買春については、1919年に外モンゴルを調査したロシア人のマイスキーが

「庫倫の蒙古婦人は全部春を稼ぎ」と書き残している。モンゴルは清朝支配下の時代にすでに西洋列強の圧力で資本主義の波にさらされている。商品経済の発達とともに、家畜を失い、没落した遊牧民の都への流入は始まっていた。生産手段をもたない遊牧民が異民族によって管理されている都で就く仕事はない。特に、女性には売春をするしか生きるすべがなかっただろうと思われる。



A prostitute and her customer standing at the front of the summer camp in the Capital of Mongolia. Moko kyokai (1911) "Pictures of Mongolia"

1 2006年以降、エンフバヤルは首相から大統領になり、首相は同党のエンフボルドに交代したが、基本的な路線は変わらない。

2 マイスキー（1927）『外蒙共和国』大阪毎日新聞社、P.138

社会主義の時代の売買春について(1921-1991)



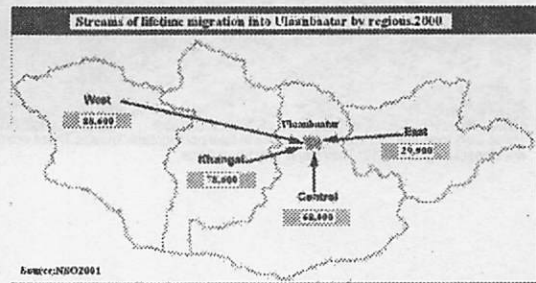
モンゴルは1921年の人民革命後、ソ連の援助により2番目の社会主義国となった。1924年の憲法は男女平等を保障し、男性も、女性もともに近代社会の建設に参加した。当時のモンゴルには労働者階級も、工場もなかった。コメコンの国際分業の下でモンゴルの工業化が進められ、人民政府は遊牧民の子弟に義務教育と職業教育、留学の機会を与え、労働者階級を生み出した。一方、地方では人民政府は封建勢力から財産を没収し、遊牧民に家畜を与え、家族小経営を再生させた。しかし、1950年

代の終わりに政府は遊牧を基幹産業として近代化するため、全国に農牧業協同組合を設置し、遊牧民は私有家畜を投資して遊牧労働者となった。社会主義の時代、都市と地方の区別なく、女性は男性と同じ教育を受け、就労する機会があり、女性が売春をしなければ暮らせないような経済的な状況は存在しなかった。ソ連では肅清にあった遺族の女性が性を売らなければ生きていけないことがあったと聞く。モンゴルにおいてはまだ聞いたことはないが、個人の売買春が皆無だったとは思えない。特に、1985年代以降、西側へ門戸を開くにつれ、外国人専用のホテルのバーには、一般の女性よりも肌を露にした服装のモンゴル人女性が外国人客と酒を飲む姿をみかけるようになった。しかし、産業と言えるほどの組織的な売買春は存在しえなかった。

1991年以降の売買春

モンゴルは1991年に、IMFの指導の下で市場経済に移行した。その「ショック療法」はモンゴル社会に大きな打撃を与えた。国有財産の私有化・国有企業の民営化は首都の労働者を失業させ、社宅を奪った。首都では「男は白タク、女は娼婦」と言われるようになった。女性の地位の低下ははなはだしく、失業、貧困、家庭内暴力、売春、人身売買などの問題が浮上した。血縁者を頼って暮らす親たちのストレスから家を飛び出すストリートチルドレンが生み出された。

地方の遊牧社会では、農牧業協同組合財産の私有化の後、遊牧民は自分の家畜を取り戻し、家族小経営が再生した。1990年代は、安定した自然条件と経済条件が続き、牧民経営はうまくいっていた。遊牧民の人口は増加し、家畜も増え、遊牧が失業人口を吸収し、地方に仲介商人を育て、都市住民に健康で安価な主食を提供した。しかし、1990年代の終わり、自然災害が起こり、農牧業協同組合を解体したことが被害を大きくし、遊牧民は多くの家畜を失った。そして、まず、商売が成り立たなくなった地方商人は、県都や首都に向けて移住を始めた。家畜を失った遊牧民は、遊牧をやめ、首都に移住しようとするようになった。また、自分たち世代は遊牧を続けるしかないが、子どもには遊牧をつがせないと考える親たちは、県都や首都の学校にいれ、将来は高級取りの労働者にしようとするようになった³。都市の物価は地方より



³ T.Bulganzaya,今岡良子 (2005) 「乳幼児の発育以上と貧困、国内移住について」 「モンゴル国における貧困家庭児童の家族に関する研究2004年度COEプロジェクト調査報告書」より

高いため、移住者は毎日の食費のためにも働かなければならない。しかし、失業者や遊牧民の移住者にとって就職は難しく、低賃金、単純労働、インフォーマルな仕事をするしか他に方法がない。特に女性にはバー、ディスコ、カラオケ、マッサージルームの求人広告が非常に多い。こうして市場経済移行後、わずか15年の間に、首都だけで524⁴の性産業が生まれるようになった。2000年以降、地方から首都に、首都から外国に移住する人口が増加している。外国で働くモンゴル人は100,000人と言われ、韓国だけで2万人⁵のモンゴル人が住んでいる。このように外国へ流出する人々の中には、不法な出国や人身売買も含まれている。外国出稼ぎの主な目的地は韓国、チェコ、ドイツ、アメリカ、日本である。特に性労働者の場合、マカオ、中国、シンガポール、フィリピン、ベルギーへ行く。マカオでは200人⁶の性労働者が確認されている。人身売買の受け入れ国としては日本、韓国、中国、マカオ、ナイジェリア、ブルガリアがある。また、モンゴルは北朝鮮の人が韓国に、中国の人が西側に移住する時に通過する場所であり、中国とロシアの麻薬ルートの中継地にもなっている。最近ではモンゴル人の人身売買のリクルーターが中国の東北地方出身者を買うケースもあり、北朝鮮からの脱北者も含まれている。これは、わずか15年の間で、モンゴルは人身売買の送り出し国になるだけでなく、受け入れ国になっていることを示している。

今日、モンゴル政府や国際機関やNGOがこれらの問題に熱心に取り組んでいる。政府は1998年にわいせつ禁止法を出し、売春を禁止し、2002年に改定された刑法では売春によって利益を得る者を処罰の対象としている。今年になってエイズの拡大を止めるため、売春を認めて、売春婦を登録しようという議論が起こっている。NGOは家庭内暴力や売買春や人身売買について熱心に研究し、被害者女性を保護し、2004年にDV法を制定させた。しかし、適正な雇用と地方の遊牧社会の安定した発展がなければ、失業者や遊牧民移住者が貧困から解放されることは難しく、これらの問題を根本的に解決することも難しいと思われる。

2004年の時点でも、遊牧民は経済活動人口の35.9%を占め、GDPの33%を生み出している。これは成人の3分の1の人口が生産手段をもち、飢えを感じることなく、都市住民に食糧を供給していることを示している。しかし、2002年に国際資本と地下資源を狙う外国企業の要求から土地私有化法が



"These days foreigner has come to Mongolia to take pornographic movies. These actresses are Mongolian girls (15-18). Their pay is only 50 us dollar."

制定され、伝統的な土地所有・利用の考え方が資本主義的に改造されてきた。そして政府も、アメリカ型の飼料依存型牧畜に変える、遊牧の「近代化」の研究を西側の研究者と共同で進めている。一部の遊牧民を農業資本家として育成し、多くの遊牧民を没落させるならば、失業、貧困、移住、売買春、人身売買を解決することは絶望的である。私は資本主義のグローバル化と闘うことなしに、そして、伝統的な文化や国内の農業・工業を守り、育てることなしに、社会的弱者になった人々を貧困から解放することは困難であり、性売買や人身売買の問題を根本的に解決できないであろうと考えている。

4 2005年3月、モンゴル国放送によるウランバートルの性産業に関する特集番組による

5 2005年6月、ソウルでモンゴル人が経営する送金会社調べによる

6 今岡良子 (2005) 「モンゴル国における女性研究の動向と研究紹介」 「アジア現代女性史2005」 P.11